



# 平成30年3月期 決算説明会

平成30年5月18日

安藤ハザマ



# Ⅰ. 平成30年3月期決算の概況

# 決算の概況



連結売上高 **3,770** 億円  
(前期比  $\Delta 7.6\%$ )

- 完成工事高を中心に個別の売上高が減少

連結営業利益 **357** 億円

連結営業利益率 **9.5** %

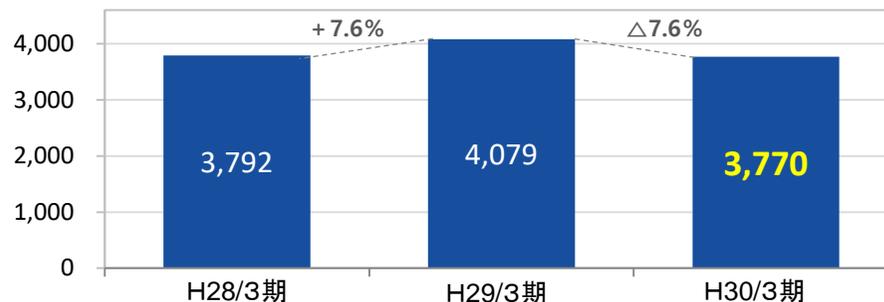
(連結営業利益 前期比  $\Delta 3.5\%$ )  
(連結営業利益率 前期比  $+0.4P$ )

- 売上高の減少により利益額は減少
- 工事採算性の改善により営業利益率は向上

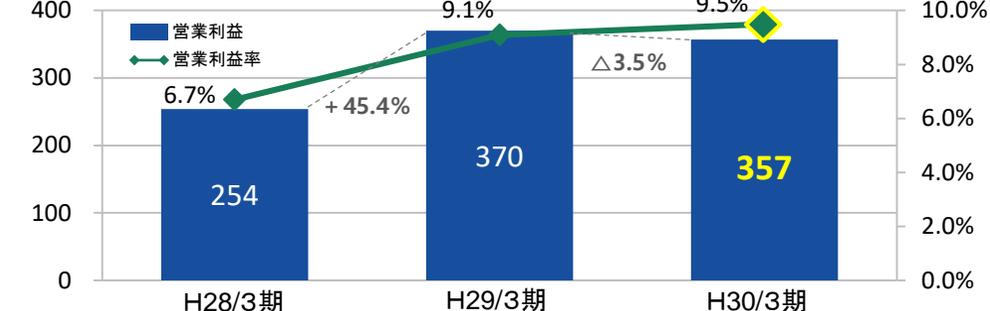
個別受注高 **3,491** 億円  
(前期比  $\Delta 18.7\%$ )

- 前期の大型工事受注の反動減等

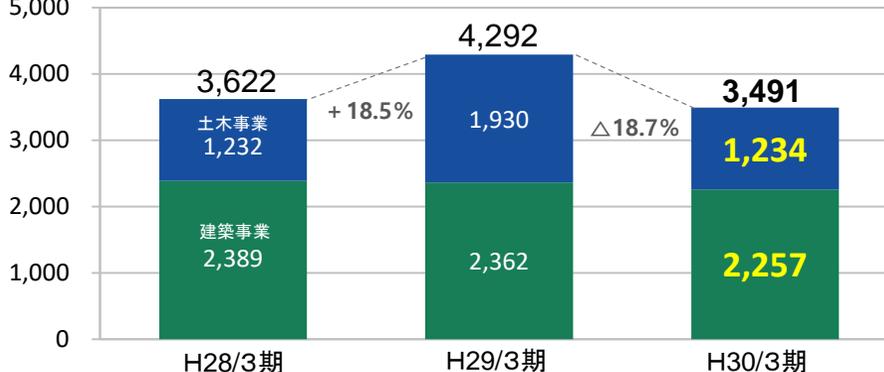
(億円)



(億円)



(億円)



# 【連結】経営成績



	平成29年3月期		平成30年3月期		
	実績	期初予想	実績	前期比 差異	期初予想比 差異
売上高	4,079	4,080	3,770	△7.6%	△7.6%
売上総利益	591	531	573	△3.0%	+8.0%
(売上総利益率)	(14.5%)	(13.0%)	(15.2%)	(+0.7P)	(+2.2P)
販売費及び一般管理費	221	220	216	△2.3%	△1.6%
営業利益	370	311	357	△3.5%	+14.8%
(営業利益率)	(9.1%)	(7.6%)	(9.5%)	(+0.4P)	(+1.9P)
経常利益	362	299	347	△4.1%	+16.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	262	200	238	△9.2%	+19.3%

(単位：億円、単位未満切捨)



## II. 平成30年3月期決算の詳細

# 【個別】完成工事高・完成工事総利益



	平成29年3月期		平成30年3月期		
	実績	期初予想	実績	前期比 差異	期初予想比 差異
完成工事高	373,098	375,000	343,468	△7.9%	△8.4%
土木工事	134,174	135,000	127,473	△5.0%	△5.6%
建築工事	238,923	240,000	215,994	△9.6%	△10.0%
完成工事総利益	55,532	50,100	53,896	△2.9%	+7.6%
(完成工事総利益率)	(14.9%)	(13.4%)	(15.7%)	(+0.8P)	(+2.3P)
土木工事	32,717	23,800	28,307	△13.5%	+18.9%
	(24.4%)	(17.6%)	(22.2%)	(△2.2P)	(+4.6P)
建築工事	22,814	26,300	25,588	+12.2%	△2.7%
	(9.5%)	(11.0%)	(11.8%)	(+2.3P)	(+0.9P)

(単位：百万円、単位未満切捨)

# 【個別】受注高



	平成29年3月期		平成30年3月期		
	実績	期初予想	実績	前期比	期初予想比
				差異	差異
受注高	429,286	410,000	349,192	△18.7%	△14.8%
土木工事	193,008	150,000	123,469	△36.0%	△17.7%
国内	182,458	140,000	119,804	△34.3%	△14.4%
海外	10,550	10,000	3,665	△65.3%	△63.3%
建築工事	236,278	260,000	225,722	△4.5%	△13.2%
国内	211,942	230,000	209,380	△1.2%	△9.0%
海外	24,335	30,000	16,342	△32.8%	△45.5%

(単位：百万円、単位未満切捨)

## 【個別】繰越高



	前期末 平成29年3月31日	当期末 平成30年3月31日	増減
繰越高	412,868	417,978	+1.2%
土木工事	226,120	221,678	△2.0%
国内	213,031	210,693	△1.1%
海外	13,089	10,984	△16.1%
建築工事	186,747	196,300	+5.1%
国内	167,554	180,412	+7.7%
海外	19,193	15,887	△17.2%

(単位：百万円、単位未満切捨)



## **III. 中期経営計画(2019.3期～2021.3期)**

# I 前・中期経営計画(2016.3期-2018.3期)の総括



## 業績・戦略等の評価

- ◆ さらなる生産性向上への取組
  - ・ICT・AI技術による省力化・省人化技術の開発促進
  - ・新PCa工場の建設
  
- ◆ 労働環境の改善への取組
  - ・作業所「4週6閉所」を積極的に実施。国内達成率 約90%
  
- ◆ 財務基盤の安定化
  - ・営業利益は額・率ともに目標数値を達成
  - ・自己資本は大きく増加
  - ・3期連続増配

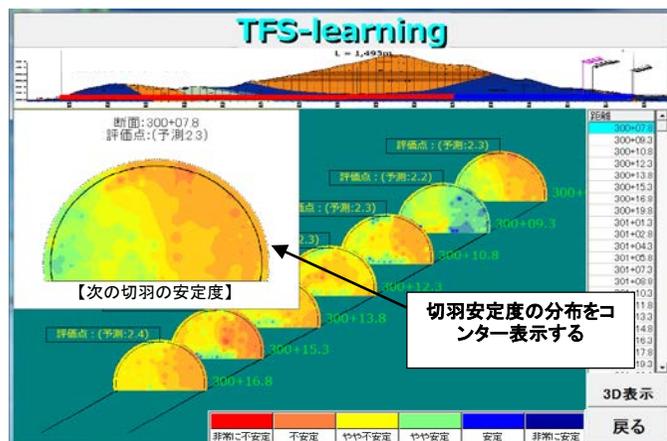
# I 前・中期経営計画(2016.3期-2018.3期)の総括



## 生産性向上への取組事例

### ○ ICT・AI技術による省力化・省人化技術の開発促進

- ・AIを活用し削孔データから切羽の安定度を自動予測する「TFS-learning」や切羽写真から岩盤の工学的特性を自動評価する「トンネル切羽AI自動評価システム」の開発
- ・発破孔の削孔位置をコンピュータによりガイダンスする「高性能削岩機ドリルジャンボ」の導入



高性能削岩機ドリルジャンボ

# I 前・中期経営計画(2016.3期-2018.3期)の総括



## 生産性向上への取組事例

### ○新PCa工場の建設

- ・2017年4月に当社グループ2箇所目となるPCa工場を千葉市内に設置。





# I 前・中期経営計画(2016.3期-2018.3期)の総括

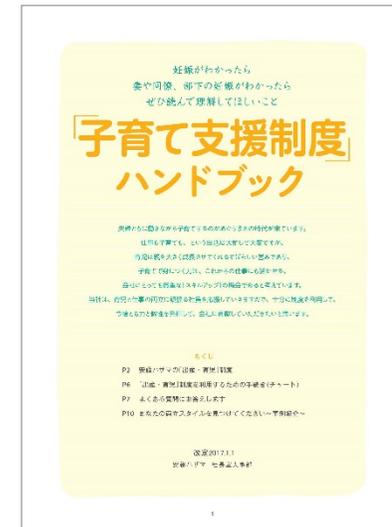
## 労働環境の改善に向けた取組事例

### ○適正な休日取得に向けた閉所活動

- ・2017年度における作業所の4週6閉所は国内達成率約90%
- ・多様な人材がいきいきと働ける職場環境づくりに向けた制度の拡充



閉所日など時短計画をカレンダーで管理





# I 前・中期経営計画(2016.3期-2018.3期)の総括

## 前中計目標数値と計画期間中の実績

- ・採算性が大幅に改善し、営業利益、ROEが上昇
- ・自己資本の充実(自己資本比率:2015年3月末 23.7% ⇒2018年3月末 36.9%)
- ・3期連続の増配で、配当性向は計画最終年度に計画水準に到達。

	2018年3月期 計画数値	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	2018年3月期 実績※
<b>【連結】</b>				
売上高	4,000億円程度	3,792億円	4,079億円	3,770億円
営業利益	200億円程度	254億円	370億円	357億円
営業利益率	安定的に5%以上	6.7%	9.1%	9.5%
ROE	10%以上	21.4%	29.9%	21.5%
配当性向	20%程度	14.8%	14.1%	19.4%
<b>【個別】</b>				
建設受注高	4,000億円程度	3,622億円	4,292億円	3,491億円
1株当たり配当額	—	12円	20円	25円

※2018年3月期の「1株当たり配当額」は予定額を記載しています。

## Ⅱ 経営環境



### 外部環境

- ・国内建設投資は当面大きな変化はないが、長期的には人口減少に伴い拡大は見通し難い
- ・技能労働者の減少継続により、働き方改革、生産性向上、人材育成等が業界全体の課題
- ・情報テクノロジーの急速な進展とさまざまな分野におけるイノベーションの創出
- ・海外は新興国中心にインフラ整備の需要が旺盛

### 安藤ハザマグループの課題

#### ◆建設事業

- ・生産性、品質向上のための情報テクノロジーの導入と活用展開の加速
- ・さらなる生産性向上、働き方改革を通じた4週8閉所の実現
- ・環境技術の開発および環境活動への取組の強化

#### ◆グループ会社

- ・建設事業への貢献度向上
- ・各社事業の深化と拡大発展



## 基本方針(戦略テーマ)

### 「イノベーションによる成長の実現」

「イノベーション(変革)により、建設事業を強化し、事業領域を拡大して、未来に続く確かな成長を実現する」

持続的成長・企業価値向上

イノベーション

建設事業の充実・強化

建設  
技術

生産  
システム

建築  
強化

人財開発  
協力会社支援

収益基盤  
の多様化

ESGへの  
取組強化



## 建設事業の充実・強化

新築から維持更新まで、次世代に繋がる社会インフラを広く支えるための基盤創り

技術開発	<ul style="list-style-type: none"><li>・施工生産性の向上に資する技術開発の加速と 情報テクノロジーの活用拡大</li><li>・異業種、産学官、協力会社との連携の促進</li><li>・環境技術の適用と開発の推進</li></ul>
人財育成・ 協力会社支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・若手の早期育成とシニア社員の支援による技術伝承</li><li>・協力会社の採用・人財育成、経営強化を支援</li></ul>
グループ総合力 の発揮	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループ各社の担当機能の高度化(コスト改革、生産性向上等の建設事業強化に貢献)</li><li>・建築事業の拡大に向けた横断的取組の強化</li></ul>



## 建設事業の充実・強化

システム・業務 の 変革	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 建設生産システムの改善・変革</li><li>・ 土木:強化セグメントの拡大(エネルギー分野、高速道路リニューアル分野、海外分野)</li><li>・ 建築:付加価値提案営業への転換(ライフサイクルコスト、ファシリティマネジメント、エネルギーマネジメント)と投資の活用(PFI・PPP等)</li><li>・ BIM・CIMの活用拡大等による効率化と高度設計技術の確立</li><li>・ 購買機能の強化と調達方法の多様化</li><li>・ ICT・AI技術を活用した間接業務の効率化、業務フローの再整備</li></ul>
海外事業	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ナショナルスタッフ育成等のグローバル化推進による生産性、収益性の改善と、新規進出国の検討</li><li>・ M&amp;Aを含む事業の長期成長モデルの構築</li></ul>



## Ⅲ 中期経営計画(2019.3期-2021.3期) 重点施策

### 収益基盤の多様化

- ・次世代エネルギー利用も視野に入れたエネルギーマネジメントへの取組
- ・エネルギーマネジメントのノウハウ活用
  - ～都市再生、地域再生事業、施設運営事業
  - ～自社開発事業(賃貸施設等)

### ESGへの取組強化

- ・環境活動の取組強化から事業化を推進
- ・社会の信頼に応える事業活動の展開(コンプライアンス、ダイバーシティの推進、働き方改革)
- ・社会貢献の充実・次世代社会インフラ整備への取組強化

### 財務目標

- ・「営業利益率」(7.5%以上)
- ・「ROE」(15%)
- ・「総還元性向」の引き上げ(最終期30%以上)
- ・成長投資への積極的な資金投入

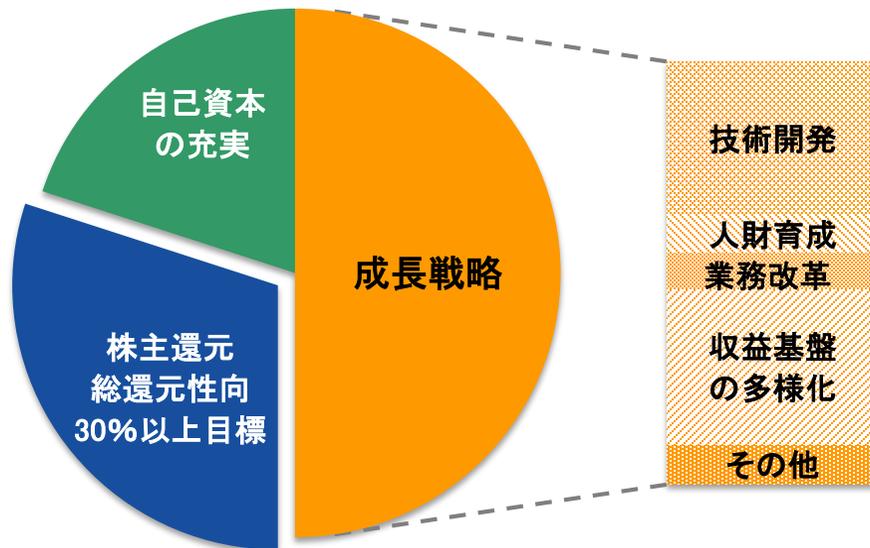


### Ⅲ 中期経営計画(2019.3期-2021.3期) 重点施策

#### 創出利益を重点施策へ計画的に投下

計画期間中の創出利益のうち、1/2程度を「成長戦略」へ投資

配分イメージ



2021年3月期 計画

連結売上高 4800億円程度

連結営業利益 360億円程度

2018年3月期 実績

連結売上高 3770億円

連結営業利益 357億円



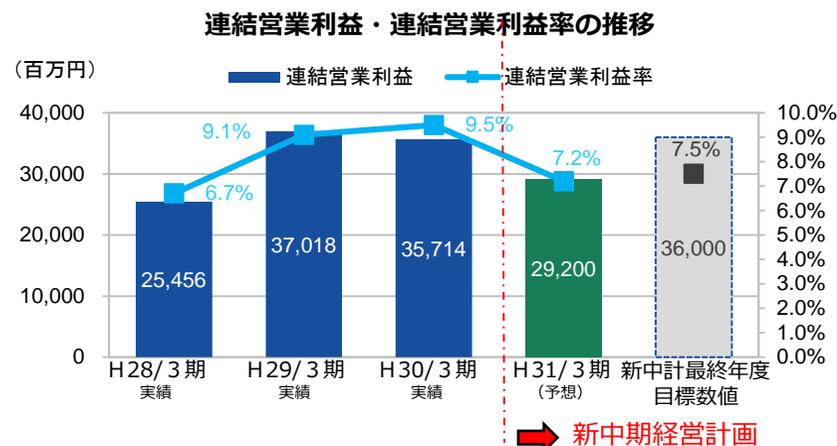
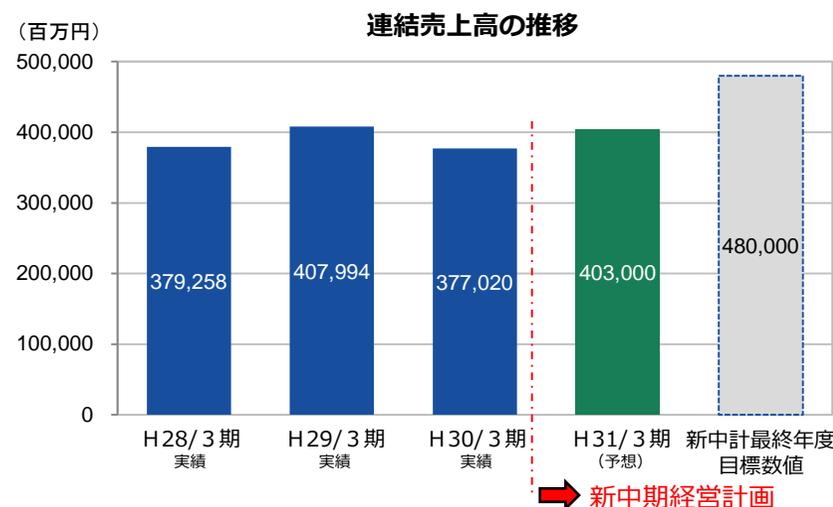
## **IV. 平成31年3月期の業績見通し**

# 【連結】通期業績予想



	平成31年3月期	
	期初予想	前期比
売上高	403,000	+6.9%
売上総利益	51,500	△10.2%
(売上総利益率)	(12.8%)	(△2.4P)
販売費及び一般管理費	22,300	+3.0%
営業利益	29,200	△18.2%
(営業利益率)	(7.2%)	(△2.2P)
経常利益	28,500	△18.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	19,500	△18.3%

(単位：百万円、単位未満切捨)

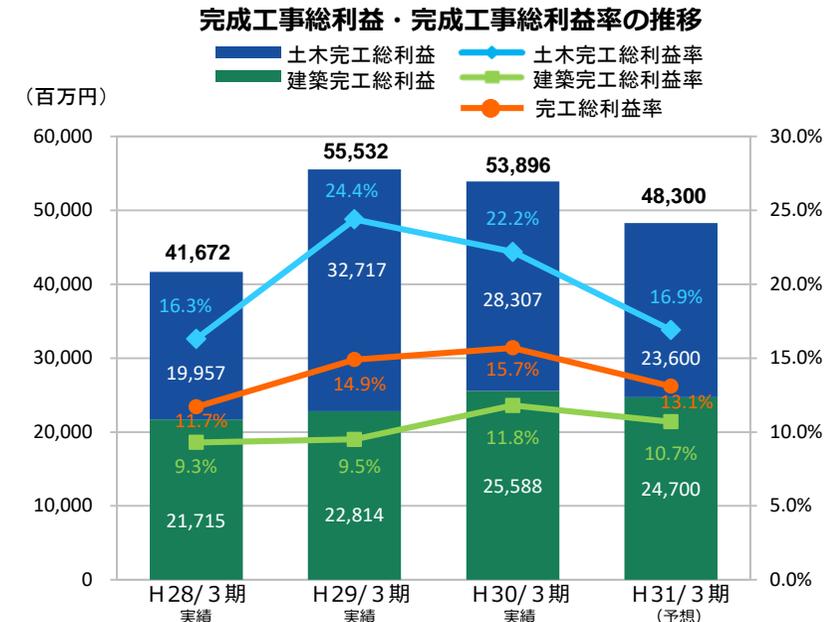
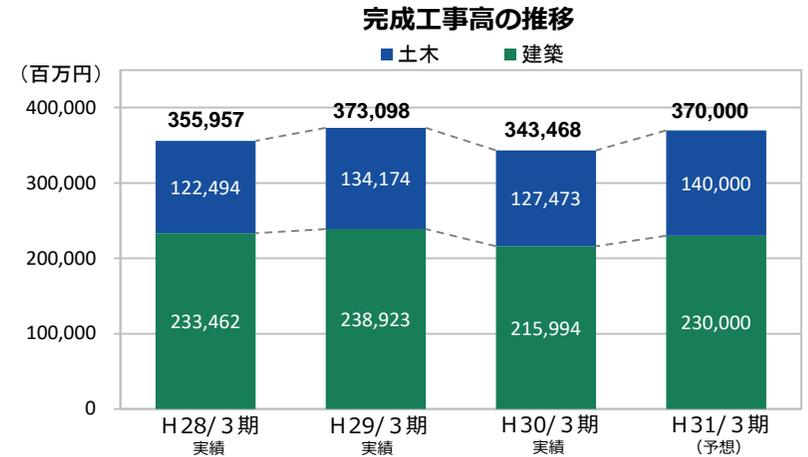


# 【個別】完成工事高・完成工事総利益予想



平成31年3月期		
	期初予想	前期比
完成工事高	370,000	+7.7%
土木工事	140,000	+9.8%
建築工事	230,000	+6.5%
完成工事総利益	48,300	△10.4%
(完成工事総利益率)	(13.1%)	(△2.6P)
土木工事	23,600	△16.6%
	(16.9%)	(△5.3P)
建築工事	24,700	△3.5%
	(10.7%)	(△1.1P)

(単位：百万円、単位未満切捨)

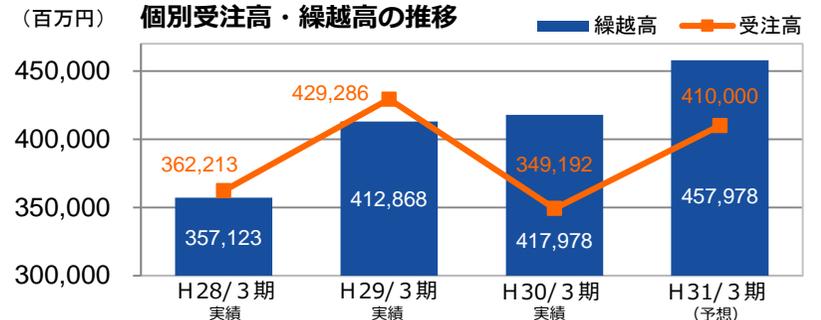


# 【個別】受注高予想

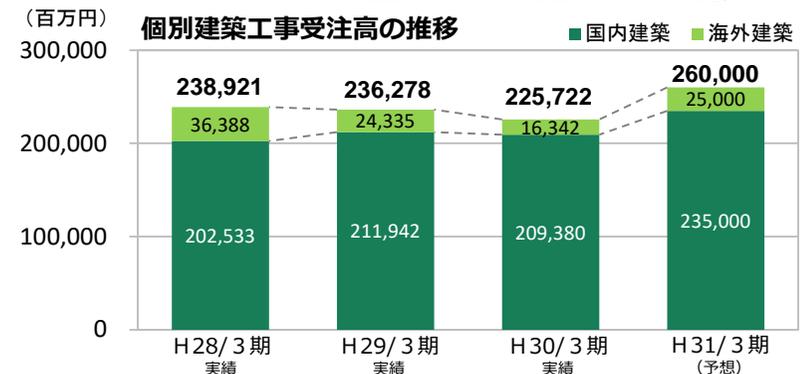
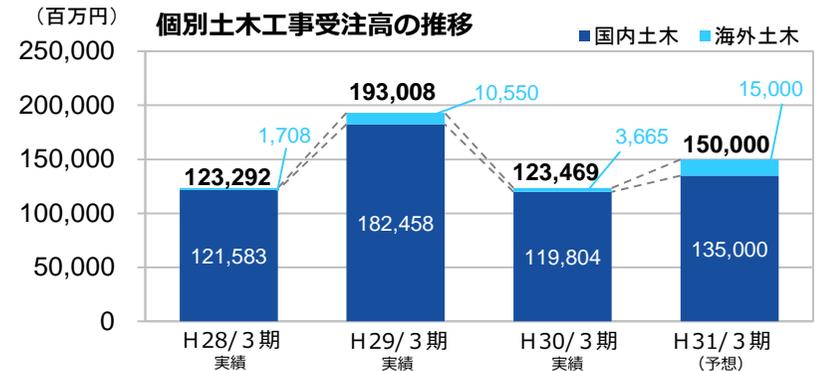


平成31年3月期		
	期初予想	前期比
受注高	410,000	+17.4%
土木工事	150,000	+21.5%
国内	135,000	+12.7%
海外	15,000	+309.2%
建築工事	260,000	+15.2%
国内	235,000	+12.2%
海外	25,000	+53.0%

(単位：百万円、単位未満切捨)



※ 以下の数式により便宜的に算出した数値です。  
「平成30年3月期末繰越高」+「平成31年3月期予想受注高」-「平成31年3月期予想完成工事高」



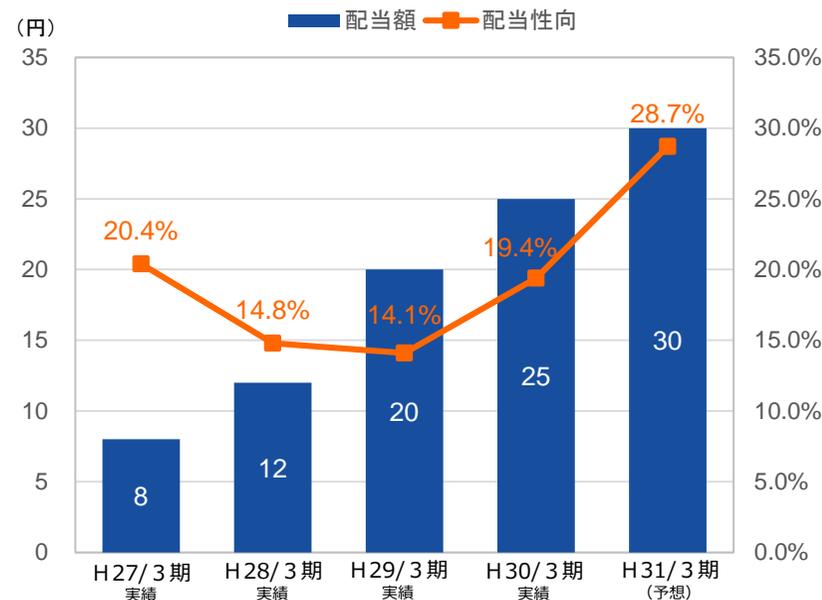


# 配当の状況

## 年間配当金

	中間配当	期末配当	合計
平成29年3月期 (実績)	9 円	11 円	20 円
平成30年3月期 (予定)	10 円 (実績)	15 円 (内、特別配当5円)	25 円 (内、特別配当5円)
平成31年3月期 (予想)	15 円	15 円	30 円

### 配当額・配当性向の推移



## 安定配当

## 年2回の配当を継続



本資料はIRのためのスライド集であり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料は株式会社 安藤・間の事業及び業界動向についての株式会社 安藤・間による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性を含んでおります。